

介護に理解を深めて

八学短大でフェスタ

八

戸



介護フェスタで最新の関連機器を体験する学生

八戸学院大学短期大学部介護福祉学科はこのほど、キャンパス内で「KAIIG O FESTA（介護フェスタ）」を開催した。学生や市民らが講演、分科会、各種体験コーナーなどを通じて介護業界の現状やこれからについて理解を深めた。

福祉・介護人材の確保などを目的とした県の補助事業を活用し、初めて開催した。若者に老いを自分ごととして捉えてもらおう

と、テーマは「ボクたちは生きつづけ、そしてトシをとる。」とした。

講演では、真宗大谷派碧祥寺（岩手県）の住職で、

高齢者施設を運営する社会福祉法人理事長でもある太田宣承さんが「一人十色の死生観」と題して語った。介護業界での起業、農福連携などに関する分科会が開催されたほか、最新の介護機器や納棺などが体験できるコーナー、映画上映会も。

介護福祉学科1年の前森翔子さんは「イベントを通じて介護に明るいイメージを持つことができ、勉強になることも多かった。また次も参加したい」と笑顔を見せた。

柏葉英美・同学科長は「参加者たちは新たな発見や感動があったようで、介護について知ってもらえて良かった」と語った。

（白鳥遼）